

専任教員の実務経験

氏名	資格・実務経験	教育科目
小濱 公次	<p>あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師 あはき養成施設教員資格 病院および治療院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加</p>	<p>東洋医学概論(新) メディカルトレーナー概論・実技(新) 生理学Ⅱ 病理学 はりきゅう総合Ⅱ、Ⅴ</p>
住吉 光輝	<p>はり師・きゅう師 あはき養成施設教員資格 病院および治療院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 全日本鍼灸マッサージ師会 本会員 鹿児島県鍼灸マッサージ師会 本会員</p>	<p>はり・きゅう理論Ⅰ(新) 経絡経穴概論Ⅰ(新) 基礎はり実技(新) はり・きゅう理論 経絡経穴概論Ⅱ 東洋医学臨床論Ⅲ 臨床はり・きゅう実習Ⅱ 臨床実習</p>
原 奈摘美	<p>はり師・きゅう師 あはき養成施設教員資格 病院および治療院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 全日本鍼灸マッサージ師会 本会員 鹿児島県鍼灸マッサージ師会 本会員</p>	<p>衛生学(新) 基礎きゅう実技(新) 東洋医学臨床論Ⅰ 臨床はり・きゅう実習Ⅱ 臨床実習 はりきゅう総合Ⅰ、Ⅱ</p>
崎野 雄樹	<p>はり師・きゅう師 あはき養成施設教員資格 病院および治療院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加</p>	<p>臨床医学総論Ⅰ(新) メディカルトレーナー概論・実技(新) 解剖学Ⅱ 臨床医学総論Ⅱ リハビリテーション医学 病態生理学 生態観察 臨床はり・きゅう実習Ⅰ はりきゅう総合Ⅱ</p>
益山 智哉	<p>はり師・きゅう師 あはき養成施設教員資格 病院および治療院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本鍼灸師会 本会員 鹿児島県鍼灸師会 本会員</p>	<p>生理学Ⅰ(新) 関係法規 社会保障制度と倫理 応用はり・きゅう実習Ⅰ はりきゅう総合Ⅱ</p>
保坂 秀樹	<p>あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師 あはき養成施設教員資格 病院および治療院における臨床5年以上 全日本鍼灸マッサージ師会 本会員 鹿児島県鍼灸マッサージ師会 本会員</p>	<p>臨床医学各論Ⅱ 東洋医学臨床論Ⅱ 応用はり・きゅう実習Ⅱ</p>

はり・きゅう学科(2年生)

旧カリキュラム:修正版

専門課程(医療分野)

教育課程及び授業時数									
科目区分	授業科目	規定単位	計画単位(時間)	1学年単位(時間)	2学年単位(時間)	3学年単位(時間)	実務		
基礎分野	医療心理学 *1	14	2(30)	2(30)					
	情報科学概論		2(30)	2(30)					
	医療英語		4(60)	4(60)					
	保健体育		2(60)	2(60)					
	経営学概論		4(60)	4(60)					
小 計		14	14(240)	14(240)					
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖学	I	4(120)	4(120)				
			II	2(60)			2(60)	○	
		生理学	I	4(120)	4(120)				
			II	2(60)				2(60)	○
	人体の構造と機能 *2			2(60)		2(60)			
	疾病の成り立ち、予防及び回復の促進	病理学			2(60)		2(60)		○
		臨床医学総論	I	1(30)	1(30)				
			II	1(30)			1(30)		○
		臨床医学各論	I	2(60)			2(60)		
			II	2(60)				2(60)	○
		リハビリテーション医学			2(60)		2(60)		○
	衛生学			2(60)	2(60)			○	
	保健医療福祉とはり及びきゅうの理念	関係法規			1(30)			1(30)	○
		医療概論			1(30)			1(30)	
		社会保障制度と倫理			1(30)			1(30)	○
小 計		27	29(870)	11(330)	9(270)	9(270)			
専門分野	基礎はり学 基礎きゅう学	はり・きゅう理論			2(60)		2(60)		○
		東洋医学概論			4(120)	4(120)			○
		経絡経穴概論	I	2(60)	2(60)				
			II	2(60)			2(60)		○
	臨床はり学 臨床きゅう学	病態生理学			1(30)			1(30)	○
		生態観察			2(60)		2(60)		○
		東洋医学臨床論	I	4(120)			4(120)		○
			II*3	4(120)			4(120)		○
			III	2(60)				2(60)	○
	社会はり学 社会きゅう学	はり・きゅう応用学		2	2(60)		2(60)		
	実 習	基礎はり実習			2(60)	2(60)			○
		基礎きゅう実習			2(60)	2(60)			○
		応用はり・きゅう実習 I			2(60)		2(60)		○
		応用はり・きゅう実習 II			2(60)		2(60)		○
		臨床はり・きゅう実習 I			2(60)		2(60)		○
		臨床はり・きゅう実習 II *4			4(120)		4(120)		○
		臨床はり・きゅう実習 III			2(60)			2(60)	
	臨床実習	臨床実習		4	4(180)			4(180)	○
総合領域	はり・きゅう総合	I	2(60)			2(60)	○		
		II*5	2(60)			2(60)	○		
		III	2(60)			2(60)	○		
		IV	2(60)			2(60)			
		V	2(60)			2(60)	○		
小 計		53	55(1710)	10(300)	26(780)	19(630)			
合 計		94	98(2820)	35(870)	35(1050)	28(900)			

*1 コミュニケーション含む *2 運動学含む *3 はり及びきゅうの適応の判断含む *4 臨床実習前試験含む *5 はり及びきゅうの歴史含む

科目名： 人体の構造と機能(前期)

授業形態： 講義

担当教員： 大竹 秀信

通年2単位

【授業概要】 人体の形態と構造を学び、健康と病気の成り立ちを理解するための基盤を形成することを目的とする。
神経系・感覚器系の組織学および肉眼解剖学レベルでの名称・構造・機能を学ぶ。

【到達目標】 神経系・感覚器系における主要部位の名称・構造を理解し、刺激を伝える各伝導路のイメージを深める。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	神経系概論	大竹
2	神経系の構造、中枢神経系(脊髄、延髄、橋、中脳)	大竹
3	中枢神経系(橋、中脳、小脳)	大竹
4	中枢神経系(間脳、大脳)	大竹
5	中枢神経系(大脳、脳室系)	大竹
6	中枢神経系(髄膜、髄液、脳血管)	大竹
7	伝導路	大竹
8	末梢神経系(脳神経)	大竹
9	末梢神経系(脳神経)	大竹
10	末梢神経系(脊髄神経)上肢	大竹
11	末梢神経系(脊髄神経)下肢	大竹
12	末梢神経系(自律神経系)	大竹
13	視覚器	大竹
14	平衡聴覚器	大竹
15	味覚器、嗅覚器	大竹
16	定期試験	大竹

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「解剖学」(医歯薬出版)

【参考図書】 「カラー人体解剖学」(西村図書)

【評価基準】 定期試験100%

科目名： 人体の構造と機能(後期)

授業形態： 講義

担当教員： 大竹 秀信

通年2単位

【授業概要】 身体運動のメカニズムを理解し、運動器疾患の成り立ちを理解するための基盤を形成することを目的とする。

【到達目標】 人体の基本的な運動に用いられる筋・関節の働きを理解する。
東洋医学的手法に応用できる運動学的理論と手技を身につける。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	人体における基礎物理学:力と質量と加速度	大竹
2	人体における基礎物理学:速度と距離と時間	大竹
3	人体における基礎物理学:位置エネルギー	大竹
4	基礎運動学:立位姿勢保持	大竹
5	基礎運動学:立位姿勢保持	大竹
6	基礎運動学:歩行	大竹
7	基礎運動学:歩行	大竹
8	応用運動学:運動連鎖	大竹
9	応用運動学:運動連鎖	大竹
10	応用運動学:高齢者の機能訓練	大竹
11	応用運動学:高齢者の機能訓練	大竹
12	応用運動学:高齢者の機能訓練	大竹
13	応用運動学:東洋医学的手法への応用	大竹
14	応用運動学:東洋医学的手法への応用	大竹
15	応用運動学:東洋医学的手法への応用	大竹
16	定期試験	大竹

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 配布資料

【参考図書】 「カラー人体解剖学」(西村図書) 「スポーツ鍼灸臨床マニュアル」(医歯薬出版)

【評価基準】 定期試験100%

科目名： 病理学(前期)

授業形態： 講義

担当教員： 小濱 公次

通年2単位

【授業概要】 正常な解剖学、生理学の話を変えながら、病的な状態の特徴を説明する。

【到達目標】 病理学を体系的に学び、様々な分野で応用できるようになる。また、国家試験にも対応できるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	疾病の一般、疾病の概念、疾病の分類	小濱
2	病因①(内因:内分泌疾患)	小濱
3	病因②(外因:栄養障害、生物学的因子)	小濱
4	病因③(外因:感染、物理的因子、化学的因子)	小濱
5	免疫異常・アレルギー①(免疫のメカニズム)	小濱
6	免疫異常・アレルギー②(アレルギー)	小濱
7	免疫異常・アレルギー③(免疫不全)	小濱
8	炎症①(炎症の一般)	小濱
9	炎症②(炎症の分類)	小濱
10	炎症③(特徴的な炎症性疾患)	小濱
11	進行性病変①(再生、化生)	小濱
12	進行性病変②(肥大、増殖)	小濱
13	進行性病変③(創傷治癒、組織内異物の処理、移植)	小濱
14	復習①	小濱
15	復習②	小濱
16	定期試験	小濱

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「病理学概論」(医歯薬出版)

【参考図書】 「PT・OT 基礎から学ぶ病理学ノート」(医歯薬出版) 「病気がみえる」シリーズ」(メディックメディア)

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 病院または治療院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： 病理学(後期)

授業形態： 講義

担当教員： 小濱 公次

通年2単位

【授業概要】 正常な解剖学、生理学の話を変えながら、病的な状態の特徴を説明する。

【到達目標】 病理学を体系的に学び、様々な分野で応用できるようになる。また、国家試験にも対応できるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	退行性病変①(萎縮、変性)	小濱
2	退行性病変②(変性:黄疸、その他)	小濱
3	退行性病変③(壊死と死)	小濱
4	循環障害①(虚血、梗塞)	小濱
5	循環障害②(血栓症、塞栓症)	小濱
6	循環障害③(出血、充血、うっ血、浮腫、ショック)	小濱
7	腫瘍①(腫瘍の一般)	小濱
8	腫瘍②(良性腫瘍と悪性腫瘍)	小濱
9	腫瘍③(悪性腫瘍)	小濱
10	腫瘍④(悪性腫瘍)	小濱
11	先天性異常①(遺伝)	小濱
12	先天性異常②(染色体異常)	小濱
13	先天性異常③(奇形)	小濱
14	復習①	小濱
15	復習②	小濱
16	定期試験	小濱

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「病理学概論」(医歯薬出版)

【参考図書】 「PT・OT 基礎から学ぶ病理学ノート」(医歯薬出版) 「病気がみえる」シリーズ」(メディックメディア)

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 病院または治療院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】 西洋医学の基本的診察法とその病態の疾患を学ぶ。

【到達目標】 西洋医学的な知識を勉強し、他の医療者との意思疎通が図れるようになることと、鍼灸治療の適応・不適応を判断できるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	神経系の診察（感覚検査）	崎野
2	神経系の診察（反射検査）	崎野
3	神経系の診察（脳神経・髄膜刺激症状検査）	崎野
4	運動機能検査（運動麻痺・筋肉の異常・不随意運動）	崎野
5	運動機能検査（協調運動・歩行）	崎野
6	運動機能検査（関節可動域・徒手筋力検査 等）	崎野
7	その他の診察	崎野
8	臨床検査法（一般検査①）	崎野
9	臨床検査法（一般検査②）	崎野
10	臨床検査法（一般検査③）	崎野
11	臨床検査法（血液生化学検査①）	崎野
12	臨床検査法（血液生化学検査②）	崎野
13	臨床検査法（血液生化学検査③）	崎野
14	臨床検査法（画像診断①）	崎野
15	臨床検査法（画像診断②）	崎野
16	定期試験	崎野

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）
復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「臨床医学総論」（医歯薬出版）

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 病院または治療院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： 臨床医学各論 I (前期)

授業形態： 講義

担当教員： 川畑 亜矢子

通年2単位

【授業概要】 鍼灸臨床においては、慢性疾患をはじめ多様な基礎疾患、合併症を持つ患者にあたるのが想定される。また、患者への医療情報の提供を行う場合も予想される。これらに対し、正確な医療知識を習得する。

【到達目標】 解剖学・生理学・病理学を踏まえ、各疾患を組織・細胞レベルで理解し、他人に説明できるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	感染症 総論、細菌感染症	川畑
2	感染症 ウイルス感染症、性感染症	川畑
3	消化管疾患 口腔疾患、食道疾患	川畑
4	消化管疾患 胃・十二指腸疾患	川畑
5	消化管疾患 腸疾患、腹膜疾患	川畑
6	肝・胆・膵疾患 肝臓疾患	川畑
7	肝・胆・膵疾患 胆道疾患	川畑
8	肝・胆・膵疾患 膵臓疾患	川畑
9	呼吸器疾患 感染症呼吸器疾患、閉塞性呼吸器疾患	川畑
10	呼吸器疾患 拘束性呼吸器疾患、その他の呼吸器疾患	川畑
11	腎・泌尿器疾患 原発性糸球体腎炎、腎不全、感染症	川畑
12	腎・泌尿器疾患 腫瘍性疾患、結石症、前立腺疾患	川畑
13	内分泌疾患 下垂体疾患、甲状腺疾患	川畑
14	内分泌疾患 副腎疾患	川畑
15	総括	川畑
16	定期試験	川畑

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、解剖学・生理学の復習を行っておくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「臨床医学各論」(医歯薬出版)

【参考図書】 「「病気がみえる」シリーズ」(メディックメディア)

【評価基準】 定期試験100%

科目名： 臨床医学各論 I (後期)

授業形態： 講義

担当教員： 川畑 亜矢子

通年2単位

【授業概要】 鍼灸臨床においては、慢性疾患をはじめ多様な基礎疾患、合併症を持つ患者にあたるのが想定される。また、患者への医療情報の提供を行う場合も予想される。これらに対し、正確な医療知識を習得する。

【到達目標】 解剖学・生理学・病理学を踏まえ、各疾患を組織・細胞レベルで理解し、他人に説明できるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	代謝・栄養疾患 糖代謝異常、脂質代謝異常	川畑
2	代謝・栄養疾患 尿酸代謝異常、その他の代謝異常	川畑
3	循環器疾患 心臓疾患	川畑
4	循環器疾患 冠動脈疾患	川畑
5	循環器疾患 動脈疾患、血圧異常	川畑
6	血液・造血器疾患 赤血球疾患、白血球疾患	川畑
7	血液・造血器疾患 リンパ網内系疾患、出血性素因	川畑
8	神経疾患 脳血管疾患、感染症疾患、脳・脊髄腫瘍	川畑
9	神経疾患 変性疾患、認知症性疾患	川畑
10	神経疾患 筋疾患、末梢神経性疾患	川畑
11	神経疾患 神経痛、機能性疾患	川畑
12	リウマチ性疾患・膠原病	川畑
13	その他の領域 小児科、一般外科、麻酔科	川畑
14	その他の領域 婦人科、皮膚科、眼科、耳鼻科、精神科、心療内科、加齢に伴う病態	川畑
15	総括	川畑
16	定期試験	川畑

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、解剖学・生理学の復習を行っておくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「臨床医学各論」(医歯薬出版)

【参考図書】 「「病気がみえる」シリーズ」(メディックメディア)

【評価基準】 定期試験100%

科目名： リハビリテーション医学(前期)

授業形態： 講義

担当教員： 崎野 雄樹

通年2単位

【授業概要】 人体の正常な動作を理解し、正常な動作が行えなくなった患者に求められるリハビリテーションについて学ぶ。

【到達目標】 人体の正常な動作および病的な動きを理解し、患者のリハビリテーションの注意事項等が理解できるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	オリエンテーション	崎野
2	リハビリテーションと障害、リハビリテーション医学と医療	崎野
3	障害(心身機能)の評価	崎野
4	障害(活動・参加・合併症)の評価	崎野
5	医学的リハビリテーション(理学療法、作業療法)	崎野
6	医学的リハビリテーション(リハビリテーション看護)	崎野
7	医学的リハビリテーション(言語聴覚療法、補装具療法)	崎野
8	運動のしくみ(運動学の基礎、姿勢)	崎野
9	運動のしくみ(運動路と感覚路)	崎野
10	運動のしくみ(反射)	崎野
11	身体各部位の機能(体幹)	崎野
12	身体各部位の機能(上肢)	崎野
13	身体各部位の機能(下肢)	崎野
14	正常歩行と異常歩行	崎野
15	総括	崎野
16	定期試験	崎野

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「リハビリテーション医学」(医歯薬出版)

【参考図書】 「リハビリテーションビジュアルブック第2版」(株式会社学研メディカル秀潤社)

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 病院または治療院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： リハビリテーション医学(後期)

授業形態： 講義

担当教員： 崎野 雄樹

通年2単位

【授業概要】 人体の正常な動作を理解し、正常な動作が行えなくなった患者に求められるリハビリテーションについて学ぶ。

【到達目標】 人体の正常な動作および病的な動きを理解し、患者のリハビリテーションの注意事項等が理解できるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	リハビリテーションの実際(脳卒中の概要)	崎野
2	リハビリテーションの実際(脳卒中のリハビリテーション)	崎野
3	リハビリテーションの実際(脊髄損傷の概要)	崎野
4	リハビリテーションの実際(脊髄損傷のリハビリテーション)	崎野
5	リハビリテーションの実際(切断の概要・リハビリテーション)	崎野
6	リハビリテーションの実際(各切断の特徴)	崎野
7	リハビリテーションの実際(小児の正常発達と代表的な疾病)	崎野
8	リハビリテーションの実際(脳性麻痺)	崎野
9	リハビリテーションの実際(頸~肩部・腰部疾患の概要とリハビリテーション)	崎野
10	リハビリテーションの実際(OA・骨折・スポーツ傷害の概要とリハビリテーション)	崎野
11	リハビリテーションの実際(関節リウマチ)	崎野
12	リハビリテーションの実際(末梢神経)	崎野
13	リハビリテーションの実際(パーキンソン病)	崎野
14	リハビリテーションの実際(呼吸器疾患、心疾患)	崎野
15	総括	崎野
16	定期試験	崎野

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「リハビリテーション医学」(医歯薬出版)

【参考図書】 「リハビリテーションビジュアルブック第2版」(株式会社学研メディカル秀潤社)

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 病院または治療院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【実務経験】 病院または治療院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： はりきゅう理論(前期)

授業形態： 講義

担当教員： 住吉 光輝

通年2単位

【授業概要】 鍼灸施術の意義や理論を通して、医療従事者としての心構えや鍼灸の基礎知識を習得する。

【到達目標】 鍼灸の基礎知識を習得し、治効の機序を理解する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	オリエンテーション、鍼灸治療の意義、鍼灸治療の特徴	住吉
2	鍼の基礎知識	住吉
3	刺鍼の方式・術式	住吉
4	特殊鍼法、灸の基礎知識、灸術の種類	住吉
5	鍼灸の臨床応用	住吉
6	リスク管理(鍼療法 of 過誤と副作用)	住吉
7	リスク管理(灸療法 of 過誤と副作用)	住吉
8	リスク管理(感染症対策)	住吉
9	鍼灸治効の基礎(痛み感覚の受容と伝導①)	住吉
10	鍼灸治効の基礎(痛み感覚の受容と伝導②)	住吉
11	鍼灸治効の基礎(温度感覚の受容と伝達)	住吉
12	鍼灸治効の基礎(触圧感覚の受容と伝達)	住吉
13	鍼灸治効の基礎(鍼灸刺激と反射①:体性反射、自律神経反射)	住吉
14	鍼灸治効の基礎(鍼灸刺激と反射②:体性自律反射)	住吉
15	総括	住吉
16	定期試験	住吉

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「はりきゅう理論」(医道の日本社)

【参考図書】 「生理学」(医歯薬出版)

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 病院または治療院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： はりきゅう理論(後期)

授業形態： 講義

担当教員： 住吉 光輝

通年2単位

【授業概要】 鍼灸施術の意義や理論を通して、医療従事者としての心構えや鍼灸の基礎知識を習得する。

【到達目標】 鍼灸の基礎知識を習得し、治効の機序を理解する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	鍼灸治効の基礎(鍼鎮痛①:鍼麻酔、内因性モルヒネ様物質 他)	住吉
2	鍼灸治効の基礎(鍼鎮痛②:鍼鎮痛の発現機構)	住吉
3	鍼灸治効の基礎(刺激と反応)	住吉
4	鍼灸療法 of 一般的治効理論(自律神経の概要)	住吉
5	鍼灸療法 of 一般的治効理論(自律神経系の科学的伝達と受容体)	住吉
6	鍼灸療法 of 一般的治効理論(自律神経系の生理的機能、血管の自律神経性調節機序)	住吉
7	鍼灸療法 of 一般的治効理論(鍼の血流に及ぼす影響)	住吉
8	鍼灸療法 of 一般的治効理論(鍼灸刺激とポリモーダル受容器)	住吉
9	鍼灸療法 of 一般的治効理論(ケミカルメディエーター)	住吉
10	鍼灸療法 of 一般的治効理論(炎症反応)	住吉
11	鍼灸療法 of 一般的治効理論(生体防御機構に及ぼす鍼灸治療の影響)	住吉
12	関連学説(サイバネティックスの学説、ホメオスターシス)	住吉
13	関連学説(汎適応症候群の学説(ストレス学説))	住吉
14	関連学説(過剰刺激症候群の学説(レイリー現象)、圧発汗反射の学説)	住吉
15	総括	住吉
16	定期試験	住吉

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「はりきゅう理論」(医道の日本社)

【参考図書】 「生理学」(医歯薬出版)

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 病院または治療院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： 経絡経穴概論Ⅱ（前期）

授業形態： 講義

担当教員： 住吉 光輝

通年2単位

【授業概要】 経絡の流注や経穴の部位及び特性について理解を深め、臨床に活用できる知識を習得する。

【到達目標】 各経絡の走行について理解し、正確に取穴できるようになる。また、経絡の走行や経穴の特性を考慮し、選穴ができるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	オリエンテーション	住吉
2	鍼灸治療の原理と原則（補虚と瀉実）	住吉
3	鍼灸治療の原理と原則（清熱）	住吉
4	鍼灸治療の原理と原則（温寒）	住吉
5	鍼灸治療の原理と原則（標治と本治、同病異治と異病同治）	住吉
6	鍼灸処方学（選穴法、特定穴の応用）	住吉
7	手の太陰肺経絡系統（経絡概論、各種特定穴、経絡病候）	住吉
8	手の陽明大腸経絡系統（経絡概論、各種特定穴、経絡病候）	住吉
9	足の陽明胃経絡系統（経絡概論、各種特定穴、経絡病候）	住吉
10	足の太陰脾経絡系統（経絡概論、各種特定穴、経絡病候）	住吉
11	手の少陰心経絡系統（経絡概論、各種特定穴、経絡病候）	住吉
12	手の太陽小腸経絡系統（経絡概論、各種特定穴、経絡病候）	住吉
13	取穴確認①	住吉
14	取穴確認②	住吉
15	総括	住吉
16	定期試験	住吉

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）
復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「新版 経絡経穴概論」（医道の日本社）

【参考図書】 「針灸学〔臨床編〕、〔経穴編〕」（東洋学術出版社） 「針灸経穴辞典」（東洋学術出版社）

【評価基準】 定期試験×課題提出状況（100%）

【実務経験】 病院または治療院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： 経絡経穴概論Ⅱ（後期）

授業形態： 講義

担当教員： 住吉 光輝

通年2単位

【授業概要】 経絡の流注や経穴の部位及び特性について理解を深め、臨床に活用できる知識を習得する。

【到達目標】 各経絡の走行について理解し、正確に取穴できるようになる。また、経絡の走行や経穴の特性を考慮し、選穴ができるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	問題演習、足の太陽膀胱経絡系統（経絡概論）	住吉
2	問題演習、足の太陽膀胱経絡系統（各種特定穴、経絡病候）	住吉
3	問題演習、足の少陰腎経絡系統（経絡概論）	住吉
4	問題演習、足の少陰腎経絡系統（各種特定穴、経絡病候）	住吉
5	問題演習、手の厥陰心包経絡系統（経絡概論）	住吉
6	問題演習、手の厥陰心包経絡系統（各種特定穴、経絡病候）	住吉
7	問題演習、手の少陽三焦経絡系統（経絡概論）	住吉
8	問題演習、手の少陽三焦経絡系統（各種特定穴、経絡病候）	住吉
9	問題演習、足の少陽胆経絡系統（経絡概論）	住吉
10	問題演習、足の少陽胆経絡系統（各種特定穴、経絡病候）	住吉
11	問題演習、足の厥陰肝経絡系統（経絡概論）	住吉
12	問題演習、足の厥陰肝経絡系統（各種特定穴、経絡病候）	住吉
13	取穴確認①	住吉
14	取穴確認②	住吉
15	総括	住吉
16	定期試験	住吉

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）
復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「新版 経絡経穴概論」（医道の日本社）

【参考図書】 「針灸学〔経穴編〕」（東洋学術出版社） 「針灸経穴辞典」（東洋学術出版社）

【評価基準】 定期試験×課題提出状況（100%）

【実務経験】 病院または治療院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： 生態観察(前期)

授業形態： 講義

担当教員： 崎野 雄樹

通年2単位

【授業概要】 体幹・上肢筋の起始停止を確認し、目的の筋を動かし、鍼灸施術に応用する。

【到達目標】 鍼灸施術を行う上で、目的の筋に刺鍼できるように的確な触察能力を身につけることを目標にする。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	骨学:下肢部(趾骨、足根骨)	崎野
2	筋学:下肢部(足部)	崎野
3	骨学:下肢部(脛骨、腓骨、膝蓋骨、大腿骨)	崎野
4	筋学:下肢部(下腿部)	崎野
5	骨学:下肢部(寛骨・仙骨)	崎野
6	筋学:下肢部(大腿部)	崎野
7	筋学:下肢部(下肢帯周囲)	崎野
8	骨学:体幹部(腰椎、胸椎、頸椎)	崎野
9	骨学:体幹部(腰椎、胸椎、頸椎)	崎野
10	筋学:体幹部(腰部・背部・項部)	崎野
11	筋学:体幹部(腰部・背部・項部)	崎野
12	神経学・血管学:下肢部・体幹部	崎野
13	神経学・血管学:下肢部・体幹部	崎野
14	神経学・血管学:下肢部・体幹部	崎野
15	前期の復習	崎野
16	定期試験	崎野

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 配布資料

【参考図書】 「プロメテウス解剖学コアアトラス」(医学書院)「改訂第2版 骨格筋の形と触察法」(大峰閣)

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 病院または治療院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： 生態観察(後期)

授業形態： 講義

担当教員： 崎野 雄樹

通年2単位

【授業概要】 頭頸部・骨盤・下肢筋の起始停止を確認し、目的の筋を動かし、鍼灸施術に応用する。

【到達目標】 鍼灸施術を行う上で、目的の筋に刺鍼できるように的確な触察能力を身につけることを目標にする。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	骨学:上肢部(手根骨、指骨)	崎野
2	筋学:上肢部(手部)	崎野
3	骨学:上肢部(橈骨、尺骨、上腕骨)	崎野
4	筋学:上肢部(前腕部)	崎野
5	筋学:上肢部(上腕部)	崎野
6	骨学:上肢部(肩甲骨、鎖骨)	崎野
7	筋学:上肢部(上肢帯周囲)	崎野
8	骨学:体幹部(胸骨、肋骨)	崎野
9	筋学:体幹部(腹部・胸部・頸部)	崎野
10	筋学:体幹部(腹部・胸部・頸部)	崎野
11	骨学:頭部・顔面部	崎野
12	筋学:頭部・顔面部	崎野
13	神経学・血管学:上肢部・顔面部	崎野
14	神経学・血管学:上肢部・顔面部	崎野
15	後期の復習	崎野
16	定期試験	崎野

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 配布資料

【参考図書】 「プロメテウス解剖学コアアトラス」(医学書院)「改訂第2版 骨格筋の形と触察法」(大峰閣)

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 病院または治療院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【実務経験】 病院または治療院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】 鍼灸師として必要な、診察や評価を行うための知識を身につけ、その理論を理解し、適切な治療へ活かせるよう学習する。

【到達目標】 臨床現場において、患者に対する鍼灸の適応・不適応を判断し、適切な治療が行えるように学習する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	治療総論・東洋医学としての鍼灸・健康医学としての鍼灸療法	原
2	弁証論治	原
3	治療原則	原
4	頭痛	原
5	顔面痛	原
6	顔面麻痺	原
7	歯痛	原
8	眼精疲労	原
9	鼻閉・鼻汁①	原
10	鼻閉・鼻汁②	原
11	脱毛症	原
12	めまい	原
13	耳鳴り・難聴①	原
14	耳鳴り・難聴②	原
15	学習のまとめ	原
16	中間試験	原
17	咳嗽	原
18	喘息	原
19	胸痛①	原
20	胸痛②	原
21	腹痛① 上腹部痛	原
22	腹痛② 下腹部痛	原
23	悪心・嘔吐①	原
24	悪心・嘔吐②	原
25	便秘・下痢① 便秘	原
26	便秘・下痢② 下痢	原
27	月経異常① 経早・経遅	原
28	月経異常② 経遅・経乱	原
29	排尿障害	原
30	E D	原
31	学習のまとめ	原
32	定期試験	原

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉」（医道の日本社）「新版 東洋医学概論」（医道の日本社）

【参考図書】 「鍼灸学〔基礎編〕」（東洋学術出版社）「新版 経絡経穴概論」（医道の日本社）

【評価基準】 中間試験50% 定期試験50%

【実務経験】 病院または治療院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】 鍼灸師として必要な、診察や評価を行うための知識を身につけ、その理論を理解し、適切な治療へ活かせるよう学習する。

【到達目標】 臨床現場において、患者に対する鍼灸の適応・不適応を判断し、適切な治療が行えるように学習する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	肩こり	原
2	頸肩腕痛①	原
3	頸肩腕痛②	原
4	上肢痛	原
5	腰下肢痛	原
6	膝痛	原
7	運動麻痺	原
8	高血圧症	原
9	低血圧症	原
10	食欲不振①	原
11	食欲不振②	原
12	肥満	原
13	発熱①	原
14	発熱②	原
15	学習のまとめ	原
16	中間試験	原
17	のぼせと冷え① のぼせ	原
18	のぼせと冷え② 冷え	原
19	不眠①	原
20	不眠②	原
21	疲労と倦怠①	原
22	疲労と倦怠②	原
23	発疹①	原
24	発疹②	原
25	小児の症状	原
26	老年医学における鍼灸療法① 老年医学の特徴	原
27	老年医学における鍼灸療法② 疾患と鍼灸治療	原
28	スポーツ医学の概要	原
29	スポーツ傷害① 上肢	原
30	スポーツ傷害② 下肢	原
31	学習のまとめ	原
32	定期試験	原

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉」（医道の日本社）「新版 東洋医学概論」（医道の日本社）

【参考図書】 「鍼灸学〔基礎編〕」（東洋学術出版社）「新版 経絡経穴概論」（医道の日本社）「スポーツ鍼灸臨床マニュアル」（医歯薬出版）

【評価基準】 中間試験50% 定期試験50%

【実務経験】 病院または治療院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】 各症候において実践的に臨床で使用される経穴、配穴、特効穴等を学習する。

【到達目標】 学校での臨床時、また卒業後に治療に携わる際、患者様の主訴が鍼灸の適応か不適応かの判断ができるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	現代医学と鍼灸について(鍼灸の歴史・現代医学の立場からの鍼灸)	保坂
2	腰下肢痛(腰部の解剖)	保坂
3	腰下肢痛(鍼灸不適応疾患)	保坂
4	腰下肢痛(鍼灸適応疾患)	保坂
5	腰下肢痛(坐骨神経痛)	保坂
6	頭痛(鍼灸不適応疾患)	保坂
7	頭痛(鍼灸適応疾患)	保坂
8	顔面痛(鍼灸不適応疾患・適応疾患)	保坂
9	歯痛(鍼灸不適応疾患・適応疾患)	保坂
10	眼精疲労(鍼灸不適応疾患・適応疾患)	保坂
11	鼻閉・鼻汁(解剖・鍼灸不適応疾患・適応疾患)	保坂
12	脱毛症(毛髪の知識・鍼灸不適応疾患・適応疾患)	保坂
13	めまい(平衡感覚について・鍼灸不適応疾患・適応疾患)	保坂
14	耳鳴りと難聴(鍼灸不適応疾患・適応疾患)	保坂
15	咳嗽(概要・鍼灸不適応疾患・適応疾患)	保坂
16	中間試験	保坂
17	膝痛(解剖・鍼灸不適応疾患・適応疾患)	保坂
18	膝痛(解剖・鍼灸不適応疾患・適応疾患)	保坂
19	喘息(鍼灸不適応疾患・適応疾患)	保坂
20	胸痛(鍼灸不適応疾患・適応疾患)	保坂
21	腹痛(痛みについて・鍼灸不適応疾患・適応疾患)	保坂
22	悪心・嘔吐(鍼灸不適応疾患・適応疾患)	保坂
23	便秘と下痢(鍼灸不適応疾患・適応疾患)	保坂
24	月経異常(種類・鍼灸不適応疾患・適応疾患)	保坂
25	排尿障害(鍼灸不適応疾患・適応疾患)	保坂
26	ED(概要・鍼灸不適応疾患・適応疾患)	保坂
27	肩こり(鍼灸不適応疾患・適応疾患・)	保坂
28	頸肩腕痛(鍼灸不適応疾患・適応疾患)	保坂
29	肩関節痛(解剖・鍼灸不適応疾患)	保坂
30	肩関節痛(鍼灸適応疾患)	保坂
31	肩関節痛(五十肩)	保坂
32	定期試験	保坂

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉」(医道の日本社)

【参考図書】

【評価基準】 中間試験50% 定期試験50%

【実務経験】 病院または治療院における臨床5年以上

【授業概要】 各症候において実践的に臨床で使用される経穴、配穴、特効穴等を学習する。

【到達目標】 学校での臨床時、また卒業後に治療に携わる際、患者様の主訴が鍼灸の適応か不適応かの判断ができるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	上肢痛（鍼灸不適応疾患・適応疾患：胸郭出口症候群）	保坂
2	上肢痛（鍼灸適応疾患：その他の絞扼性神経障害）	保坂
3	上肢痛（鍼灸適応疾患：その他の絞扼性神経障害）	保坂
4	運動麻痺（概要・鍼灸不適応疾患）	保坂
5	運動麻痺（鍼灸適応疾患：脳血管障害後遺症・末梢神経麻痺）	保坂
6	高血圧（メタボリック症候群・鍼灸不適応疾患）	保坂
7	高血圧（適応疾患）	保坂
8	低血圧（概要・鍼灸不適応疾患・適応疾患）	保坂
9	食欲不振（鍼灸不適応疾患・適応疾患）	保坂
10	肥満（概要・鍼灸不適応疾患・適応疾患）	保坂
11	発熱（鍼灸不適応疾患・適応疾患）	保坂
12	のぼせと冷え（概要・鍼灸不適応疾患・適応疾患）	保坂
13	不眠（概要・鍼灸不適応疾患・適応疾患）	保坂
14	不眠（鍼灸適応疾患）	保坂
15	疲労と倦怠（鍼灸不適応疾患・適応疾患）	保坂
16	中間試験	保坂
17	発疹（概要・鍼灸不適応疾患・適応疾患）	保坂
18	小児の症状（小児疾患の特徴）	保坂
19	老年医学における鍼灸治療（高齢化社会の基礎知識）	保坂
20	老年医学における鍼灸治療（老年期の身体特性）	保坂
21	老年医学における鍼灸治療（老年者の疾患）	保坂
22	スポーツ医学における鍼灸療法（概要）	保坂
23	スポーツ医学における鍼灸療法（鍼灸治療の目的）	保坂
24	スポーツ医学における鍼灸療法（スポーツ外傷・障害：運動性肩関節痛）	保坂
25	スポーツ医学における鍼灸療法（スポーツ外傷・障害：運動性肩関節痛の検査法）	保坂
26	スポーツ医学における鍼灸療法（スポーツ外傷・障害：運動性肘痛）	保坂
27	スポーツ医学における鍼灸療法（スポーツ外傷・障害：運動性肘痛の検査法）	保坂
28	スポーツ医学における鍼灸療法（スポーツ外傷・障害：運動性腰痛）	保坂
29	スポーツ医学における鍼灸療法（スポーツ外傷・障害：運動性腰痛の検査法）	保坂
30	スポーツ医学における鍼灸療法（スポーツ外傷・障害：運動性膝痛・下肢痛）	保坂
31	スポーツ医学における鍼灸療法（スポーツ外傷・障害：運動性膝痛・下肢痛の検査法）	保坂
32	定期試験	保坂

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉」（医道の日本社）

【参考図書】

【評価基準】 中間試験50% 定期試験50%

【実務経験】 病院または治療院における臨床5年以上

科目名： はり・きゅう応用学(前期)

授業形態： 講義

担当教員： 宮内 真喜子

通年2単位

【授業概要】 講義、実技を通し、患者さんとのコミュニケーションにおいて必要な傾聴力・発話力・意図を読み取るスキルのレベルアップを図る。また、現場で遭遇する場面を想定し敬語や電話応対、茶菓接待、面接などの接遇を実践練習の中で身につける。

【到達目標】 コミュニケーションも大切な治療の一つと認識し、臨床家としてクライアントの気持ちに添える人間力とコミュニケーション力を身につける。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	自己紹介・自己分析	宮内
2	コミュニケーション研修(言葉だけで目標達成ゲーム)	宮内
3	コミュニケーションスキル概論	宮内
4	傾聴力(概論)	宮内
5	傾聴力(基本の13条)	宮内
6	傾聴力(受容態度:環境)	宮内
7	傾聴力(受容態度:非言語コミュニケーション講義)	宮内
8	傾聴力(受容態度:非言語コミュニケーション実践練習①)	宮内
9	傾聴力(受容態度:非言語コミュニケーション実践練習②)	宮内
10	傾聴力(オウム返しの基礎知識と実践練習①)	宮内
11	傾聴力(オウム返しの基礎知識と実践練習②)	宮内
12	傾聴力(うなづきと相づちの基礎知識と実践練習①)	宮内
13	傾聴力(うなづきと相づちの基礎知識と実践練習②)	宮内
14	傾聴力(言い換えの基礎知識と実践練習)	宮内
15	傾聴力(オープン・クローズクエスションの基礎知識と実践練習)	宮内
16	定期試験	宮内

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 配布資料

【参考図書】

【評価基準】 定期試験100%

科目名： はり・きゅう応用学(後期)

授業形態： 講義

担当教員： 宮内 真喜子

通年2単位

【授業概要】 講義、実技を通し、患者さんとのコミュニケーションにおいて必要な傾聴力・発話力・意図を読み取るスキルのレベルアップを図る。また、現場で遭遇する場面を想定し敬語や電話応対、茶菓接待、面接などの接遇を実践練習の中で身につける。

【到達目標】 コミュニケーションも大切な治療の一つと認識し、臨床家としてクライアントの気持ちに添える人間力とコミュニケーション力を身につける。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	傾聴力(共感の言葉の基礎知識と実践練習)	宮内
2	傾聴力まとめ・実践練習	宮内
3	意図を読み取るスキル	宮内
4	話す力(目的に応じた話し方)	宮内
5	話す力(聞き手に伝わる話し方)	宮内
6	話す力(治療家と患者の信頼関係の作り方)	宮内
7	話す力(4つの質問と3つの説明)	宮内
8	敬語	宮内
9	電話応対	宮内
10	茶菓接待	宮内
11	履歴書の書き方	宮内
12	就職面接(面接の種類と基礎的マナー)	宮内
13	就職面接(よく聞かれる質問)	宮内
14	就職面接(実践練習)	宮内
15	就職面接(実践練習)	宮内
16	定期試験	宮内

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 配布資料

【参考図書】

【評価基準】 定期試験100%

科目名： 応用はり・きゅう実習 I (前期)

授業形態： 実習

担当教員： 益山 智哉

通年2単位

【授業概要】 鍼灸臨床に多い疾患に注目し、二人組になり医療面接・検査法・治療法を反復練習し、技術の習得に努める。

【到達目標】 基礎的な疾患をベースに治療・医療面接を反復練習し、臨床に活用する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	東洋医学的医療面接の仕方①	益山
2	東洋医学的医療面接の仕方②	益山
3	東洋医学的医療面接の仕方③	益山
4	各種「頸肩腕痛」の医療面接・治療①	益山
5	各種「頸肩腕痛」の医療面接・治療②	益山
6	各種「頸肩腕痛」の医療面接・治療③	益山
7	各種「肩関節痛」の医療面接・治療①	益山
8	各種「肩関節痛」の医療面接・治療②	益山
9	各種「肩関節痛」の医療面接・治療③	益山
10	各種「上肢痛」の医療面接・治療①	益山
11	各種「上肢痛」の医療面接・治療②	益山
12	各種「上肢痛」の医療面接・治療③	益山
13	各種「腰下肢痛」の医療面接・治療①	益山
14	各種「腰下肢痛」の医療面接・治療②	益山
15	各種「腰下肢痛」の医療面接・治療③	益山
16	定期試験	益山

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「東洋医学臨床論(はりきゅう編)」(医道の日本社) 「はりきゅう基礎技術学」(南江堂) 「新版 経絡経穴概論」(医道の日本社)

【参考図書】

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 病院または治療院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： 応用はり・きゅう実習 I (後期)

授業形態： 実習

担当教員： 益山 智哉

通年2単位

【授業概要】 鍼灸臨床に多い疾患に注目し、二人組になり医療面接・検査法・治療法を反復練習し、技術の習得に努める。

【到達目標】 基礎的な疾患をベースに治療・医療面接を反復練習し、臨床に活用する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	各種「膝痛」の医療面接・治療①	益山
2	各種「膝痛」の医療面接・治療②	益山
3	各種「めまい・耳鳴り」の医療面接・治療①	益山
4	各種「めまい・耳鳴り」の医療面接・治療②	益山
5	各種「肩こり」の医療面接・治療①	益山
6	各種「肩こり」の医療面接・治療②	益山
7	各種「不眠・倦怠感」の医療面接・治療①	益山
8	各種「不眠・倦怠感」の医療面接・治療②	益山
9	各種「哮喘・咳嗽」の医療面接・治療①	益山
10	各種「哮喘・咳嗽」の医療面接・治療②	益山
11	各種「鼻閉・鼻汁」の医療面接・治療①	益山
12	各種「鼻閉・鼻汁」の医療面接・治療②	益山
13	各種「下痢・便秘」の医療面接・治療①	益山
14	各種「下痢・便秘」の医療面接・治療②	益山
15	総括	益山
16	定期試験	益山

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「東洋医学臨床論(はりきゅう編)」(医道の日本社) 「はりきゅう基礎技術学」(南江堂) 「新版 経絡経穴概論」(医道の日本社)

【参考図書】

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 病院または治療院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： 応用はり・きゅう実習Ⅱ（前期）

授業形態： 実習

担当教員： 保坂 秀樹

通年2単位

【授業概要】 鍼灸臨床に多い五大疾患に注目し、二人組で医療面接・検査法・治療法を反復練習し、技術の習得に努める。

【到達目標】 基礎的な疾患をベースに医療面接・治療を反復練習し、臨床に活用する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	血圧測定(説明と実技-毎回授業開始時に血圧を測る)	保坂
2	医療を受けてのアンケート	保坂
3	カルテの記載事項の説明	保坂
4	医療面接について(医療面接の実際と技法)	保坂
5	医療面接について(実際に生徒同士で初診を設定に医療面接)	保坂
6	医療面接について(実際に生徒同士で初診を設定に医療面接)	保坂
7	腰痛の医療面接の進め方	保坂
8	各種「腰痛」の医療面接・治療	保坂
9	各種「腰痛」の医療面接・治療	保坂
10	各種「腰痛」の医療面接・治療	保坂
11	坐骨神経痛の医療面接の進め方	保坂
12	各種「坐骨神経痛」の医療面接・治療	保坂
13	各種「坐骨神経痛」の医療面接・治療	保坂
14	各種「坐骨神経痛」の医療面接・治療	保坂
15	各種「坐骨神経痛」の医療面接・治療	保坂
16	定期試験	保坂

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 配布資料

【参考図書】

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 病院または治療院における臨床5年以上

科目名： 応用はり・きゅう実習Ⅱ（後期）

授業形態： 実習

担当教員： 保坂 秀樹

通年2単位

【授業概要】 鍼灸臨床に多い五大疾患に注目し、二人組で医療面接・検査法・治療法を反復練習し、技術の習得に努める。

【到達目標】 基礎的な疾患をベースに医療面接・治療を反復練習し、臨床に活用する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	膝関節痛の医療面接の進め方	保坂
2	各種「膝関節痛」の医療面接・治療	保坂
3	各種「膝関節痛」の医療面接・治療	保坂
4	各種「膝関節痛」の医療面接・治療	保坂
5	頸・上肢痛の医療面接の進め方	保坂
6	各種「頸・上肢痛」の医療面接・治療	保坂
7	各種「頸・上肢痛」の医療面接・治療	保坂
8	各種「頸・上肢痛」の医療面接・治療	保坂
9	各種「頸・上肢痛」の医療面接・治療	保坂
10	肩関節周囲炎の医療面接の進め方	保坂
11	各種「肩関節周囲炎」の医療面接・治療	保坂
12	各種「肩関節周囲炎」の医療面接・治療	保坂
13	各種「肩関節周囲炎」の医療面接・治療	保坂
14	各種「肩関節周囲炎」の医療面接・治療	保坂
15	五大疾患の復習で医療面接	保坂
16	定期試験	保坂

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 配布資料

【参考図書】

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 病院または治療院における臨床5年以上

科目名： 臨床はり・きゅう実習 I (前期)

授業形態： 実習

担当教員： 崎野 雄樹

通年2単位

【授業概要】 肩甲帯・上肢の筋の起始停止を確認し、目的の筋を動かし、鍼灸施術に応用する。

【到達目標】 鍼灸施術を行う上で、目的の筋に刺鍼できるように的確な触察能力を身につけることを目標にする。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	刺鍼練習とパルスの使い方	崎野
2	下腿部(腓腹筋・ヒラメ筋の触察と通電)	崎野
3	下腿部(前脛骨筋・長指伸筋・長母指伸筋の触察と通電)	崎野
4	下腿部(長腓骨筋・短腓骨筋の触察と通電)	崎野
5	下腿部の復習	崎野
6	大腿部(大腿四頭筋の触察と通電)	崎野
7	大腿部(大腿筋膜張筋・縫工筋の触察と通電)	崎野
8	大腿部(薄筋・長内転筋・大内転筋の触察と通電)	崎野
9	大腿部(半腱様筋・半膜様筋の触察と通電)	崎野
10	大腿部(大腿二頭筋の触察と通電)	崎野
11	大腿部の復習	崎野
12	腰部(腰方形筋の触察と通電)	崎野
13	背部(脊柱起立筋群の触察と通電)	崎野
14	腰背部の復習	崎野
15	下肢の復習	崎野
16	定期試験	崎野

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 配布資料

【参考図書】 「プロメテウス解剖学コアアトラス」(医学書院) 「改訂第2版 骨格筋の形と触察法」(大峰閣)

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 病院または治療院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： 臨床はり・きゅう実習 I (後期)

授業形態： 実習

担当教員： 崎野 雄樹

通年2単位

【授業概要】 下肢の筋の起始停止を確認し、目的の筋を動かし、鍼灸施術に応用する。

【到達目標】 鍼灸施術を行う上で、目的の筋に刺鍼できるように的確な触察能力を身につけることを目標にする。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	前腕部(円回内筋・橈側手根屈筋・長掌筋・尺側手根屈筋の触察と通電)	崎野
2	前腕部(腕橈骨筋・長・短橈側手根伸筋の触察と通電)	崎野
3	前腕部の復習	崎野
4	上腕部(上腕二頭筋・上腕筋の触察と通電)	崎野
5	上腕部(上腕三頭筋の触察と通電)	崎野
6	上腕部の復習	崎野
7	肩甲帯(棘上筋・棘下筋の触察と通電)	崎野
8	肩甲帯(小円筋・大円筋・広背筋の触察と通電)	崎野
9	肩甲帯(三角筋の触察と通電)	崎野
10	肩甲帯(僧帽筋・菱形筋の触察と通電と通電)	崎野
11	肩甲帯の復習	崎野
12	肩甲帯から上肢の復習	崎野
13	肩甲帯から上肢の復習	崎野
14	全身の触察と通電	崎野
15	全身の触察と通電	崎野
16	定期試験	崎野

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 配布資料

【参考図書】 「プロメテウス解剖学コアアトラス」(医学書院) 「改訂第2版 骨格筋の形と触察法」(大峰閣)

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 病院または治療院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】 学習したことを基礎として、外来患者への施術を行う。

【到達目標】 外来患者への施術を通して、臨床技術だけでなく、医療従事者としての心構えや患者様への対応なども身に付ける。
「医療従事者には何が必要か」と、常に自分へ目標や課題を設けて実習に取り組む。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	実習前確認試験	住吉・原
2・3	外来施術（施術後のフィードバックを含む）	住吉
4・5	外来施術（施術後のフィードバックを含む）	原
6・7	外来施術（施術後のフィードバックを含む）	住吉
8・9	外来施術（施術後のフィードバックを含む）	原
10・11	外来施術（施術後のフィードバックを含む）	住吉
12・13	外来施術（施術後のフィードバックを含む）	原
14・15	外来施術（施術後のフィードバックを含む）	住吉
16・17	外来施術（施術後のフィードバックを含む）	原
18・19	外来施術（施術後のフィードバックを含む）	住吉
20・21	外来施術（施術後のフィードバックを含む）	原
22・23	外来施術（施術後のフィードバックを含む）	住吉
24・25	外来施術（施術後のフィードバックを含む）	原
26・27	外来施術（施術後のフィードバックを含む）	住吉
28・29	外来施術（施術後のフィードバックを含む）	原
30・31	外来施術（施術後のフィードバックを含む）	住吉
32・33	外来施術（施術後のフィードバックを含む）	原
34・35	外来施術（施術後のフィードバックを含む）	住吉
36・37	外来施術（施術後のフィードバックを含む）	原
38・39	外来施術（施術後のフィードバックを含む）	住吉
40・41	外来施術（施術後のフィードバックを含む）	原
42・43	外来施術（施術後のフィードバックを含む）	住吉
44・45	外来施術（施術後のフィードバックを含む）	原
46・47	外来施術（施術後のフィードバックを含む）	住吉
48・49	外来施術（施術後のフィードバックを含む）	原
50・51	外来施術（施術後のフィードバックを含む）	住吉
52・53	外来施術（施術後のフィードバックを含む）	原
54・55	外来施術（施術後のフィードバックを含む）	住吉
56・57	外来施術（施術後のフィードバックを含む）	原
58・59	外来施術（施術後のフィードバックを含む）	住吉
60・61	外来施術（施術後のフィードバックを含む）	原
62	定期試験（臨床実習前試験を兼ねる）	住吉・原

【授業外学修】 予習：実習に臨む前に、カルテや該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。
復習：実習内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。

【教科書名】

【参考図書】

【評価基準】 定期試験60% レポート20% 実習態度20%

【実務経験】 病院または治療院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加